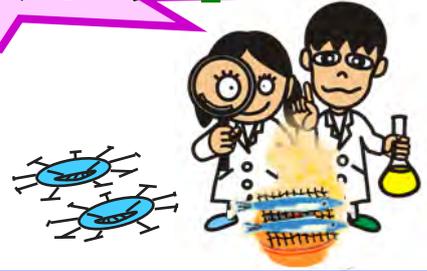
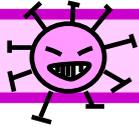


感染症に気をつけよう!

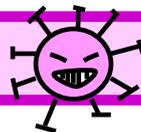
2019年【10月号】

横浜市内の感染症 流行状況



感染症**	流行状況		説明【解説付き既刊号等】 ← クリック
麻しん*	発生		7月以降、報告がありませんでしたが、9月に報告されています。【'19.6号】【予防接種】
腸管出血性大腸菌感染症*	多発	横ばい	報告が多いです。例年、初夏から初秋にかけて多く報告されます。【'19.9号】【ちらし】
RSウイルス感染症*	流行	横ばい	以前は冬に流行していましたが、近年、夏から秋にかけて増加しています。
風しん*	多発	横ばい	男性20～40代、女性20～30代に多いです。予防はワクチンが有効です。【'19.4号】【予防接種】
手足口病*	警報	横ばい	7月にピークとなり、8月以降は減少していますが、まだ警報発令中です。【'19.7号】

今、気をつけたい感染症 インフルエンザ



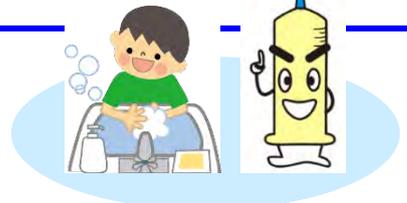
- 東京都では、すでに流行期入りと発表されています。横浜市でも、9月中旬に学級閉鎖が報告されました。

- インフルエンザ*の特徴は、38℃以上の発熱・頭痛・関節痛・筋肉痛・全身倦怠感等の症状が急に出ることです。かかったかな!と思ったら、咳エチケット*を守り早めに受診してください。



- 予防の基本は正しい手洗い*です。流水と石けんによる手洗いは、ウイルスを物理的に除去する有効な方法です。

- インフルエンザワクチンには、発症をある程度抑える効果や、重症化を予防する効果があり、特に高齢者や基礎疾患のある人など、かかると重症化する可能性が高い場合には効果が高いと考えられています。かかりつけ医に相談しましょう。



参考ホームページ *：厚生労働省 **：国立感染症研究所

横浜市衛生研究所 感染症・疫学情報課【横浜市感染症情報センター】

